



## ●都市計画と交通

**第16回** 9月20日(水) 矢部 真氏(工学院大) “IFORS参加報告” 出席9名。

6月カナダのトロントで開催されたIFORSの国際会議に参加されたときの見聞と、氏が同会議のワークショップに提出された論文(輸送費の観点から見た配送センター(または定修施設)の最適配置)の紹介を聞いた。なお、10月は休会にする。

**第17回** 11月15日(水) 矢部 真氏(同上) “戦略形成のパターン” 出席9名。

前回メンバーから要望の出た H. Mintzberg の論文(6月のIFORS国際会議の‘長期計画’ワークショップに提出。なお、若干圧縮したものが、Mgmt. Sci. 誌24巻9号に掲載されている。)を紹介していただいた。戦略を、明確な形で意図的に、意思決定に先立って作られた計画とする従来の定義をM氏は不完全とし、このような意図された戦略のほかに、ある一貫性をもった一連の意思決定のパターンを広く戦略とする立場に立って、VW社、ベトナム戦争における米政府、Saturday Night 誌(カナダ)などのケースを取り上げ、各時期を6つに類別して分析を試みている。この論旨に対し、後追いで個別に批判しても統一的な理論がなければ、将来の計画に使えないのではないかとの意見が出た。

**第18回** 12月20日(水) 馬場知己氏(部会主査、都市環境システム研) “都市開発と遷都問題” 出席10名。

「人と日本」誌の最近号に執筆された論文を中心に、氏の持論の一部を披露された。まず、‘都市開発’と‘遷都問題’は別個に検討すべき問題であり、緊急の問題と長期的問題を混同すると大変なムダ(国家的浪費)を生ずることを、住宅政策(マンションブーム)と新東京国際空港(成田)の2つの事例で説明された。つぎに、当面の東京の過密問題を取り上げて分析し(東京の過密は部分的現象であり、遷都によって解決とするのは錯覚である。)、それに対する具体的処方をいくつか述べられた。たとえば、近い将来、東北新幹線等開業後の新幹線ターミナルの過密解消策として、山手線まわり新幹線新設案が提示され、その実行可能性と、いろいろな波及

効果(第二東海道(または中央)新幹線の着工時期なども)が説明された。(なお会場は毎回、東洋経済新報社会議室)

## ●政策科学

**10月例会** 10月14日(土) 14:00~17:00, 場所:三菱総研会議室, 出席12名

(1)紹介「ローマクラブ第4回報告書・人類の目標」(防衛庁空幕・斎藤昂氏): 現代は①技術と価値観の変化による変革時代、②相互依存深化の時代と規定。だが各国の高い目標、狭い視野、短期指向は破局を招くので、現実的かつ未来指向の目標を立てれば新世界が開けると説く。  
(2)研究発表「中高年問題のシステムのアプローチ(2)」(武田薬品・漢晋平氏): 国家・企業・個人の3段階に分け、各段階に諸学問の成果をあてはめて、全体モデルとシナリオを描くための基礎データを紹介。

**11月例会** 11月18日(土) 14:00~17:00, 場所:三菱総研会議室, 出席10名

(1)研究発表「政策科学と行動科学(2)」(防衛庁空幕・片山隆仁氏): ①米国では中企業で行動科学への関心が高く、経営に有効で新しい洞察をもたらすと評価されている。  
②企業マネジャーの心中では人間関係重視型と生産向上重視型が葛藤しているが、自分の型を自覚すると両者の調和を図りだす。  
③コーニング・ガラス社の「低給には不満だが、高給だから満足ともいえない」などの社内動機調査を紹介。  
(2)研究発表「ゲオポリティックス(1)」(同上・漢氏)①地政学は法的国家観に対し生活態としての国家を経験的に捉えるもので、20世紀初めに国家学として誕生。  
②ついで各国家を起源、宗教、政治、人権で分類提示、討論した。

**12月例会** 12月16日(土) 14:00~17:00, 場所:三菱総研会議室, 出席10名

(1)紹介「行動科学の展開・1」(防衛庁空幕・関昭氏): 管理(マネジメント)と管理者のリーダーシップの関係から説き起し、人間行動の動因、意欲を生みだすための諸理論、リーダーシップに重要な人間関係・能率・職務権限の三次元モデルなどを提示、討論。

**1月例会** 1月20日(土) 14:00~17:30, 場所:三菱総研会議室, 出席12名

(1)研究発表「政策科学と目標設定」(早大・縣公一郎氏) 価値と事実という二つの命題に関する諸説を挙げ、目的設定過程を公開する必要性を訴えたうえ、キャンベルおよびニコラスの目標優先度測定法を紹介したが、デルファイ法は抽象的価値観には適しないなどの意見が出た。

②紹介「行動科学の展開・2」(同上・関昭氏):リーダーシップの効果を決定する3つの変数, リーダーを取りまく5つの環境があることを示したうえ, 部下の成熟度に応じて指導方法を変えようという状況対応型リーダーシップ(SL)理論を紹介した。③研究発表「社会システムとシステムズ・アプローチ」(三菱総研・杉野昇氏) 社会が複雑化するにつれて一面的問題解決が不可能になったという視点から, 米国で成功した諸手法を社会問題に適用するため, モデル化・評価・運用の3段階に分けて特徴的問題点ごとに整理発表した。

## ●日本のリソースマネジメント

議題:「日本の合理主義を考える。」東大教授公文俊平氏の講演を中心に討議。出席者21名。

当研究部会も大詰めにきたので, それを整理する意味において日本のリソースマネジメントの根底を支配する日本の合理主義について徹底的にメスを入れたものであった。日本の合理主義については意外と日本人自体が無理解であり, 漠としてつかみどころのないものであることも事実であるが, 今回の討議を通じその輪かくが体系的に浮きぼりにされたのは大きな成果であった。(研究部会主査 小島光造)。

### 会 合 記 録 ( )内は出席者数

編集委員会	1月11日(木) (11)
会員増強タスクフォース	1月12日(金) (3)
会員増強タスクフォース	1月18日(木) (5)
IAOR委員会	1月18日(木) (2)
会計	1月19日(金) (2)
庶務幹事会	1月19日(金) (6)
研究普及委員会	1月30日(火) (9)
月例講演会(北海道支部)	2月2日(金) (31)
表彰委員会	2月9日(金) (5)
編集委員会	2月13日(火) (14)
IAOR委員会	2月16日(金) (2)

### 次 号 予 告

#### 特集 スポーツのOR

その数理科学的側面	竹内 啓
強さをはかる	竹内 啓・藤野和建
野球のOR	鳩山由紀夫
スポーツとOR	小野 勝次
スポーツの戦略	増田 伸爾

#### 総合報告

地域研究(その2)	地域研究部会
-----------	--------

#### 事例報告

企業合併効果の計量分析	星野 靖雄
-------------	-------

編集後記 ▼イランの政変で, また石油危機が到来するかも知れないなどという新聞記事を読みますと, 主婦がトイレット・ペーパーの確保のために走りまわった5年ほど前のオイル・ショックの頃が思い出されてゾッとします。この頃は「アラブがくしゃみをすると日本が風邪をひく」ようになったのでしょうか。▼エネルギー危機というのは, こうして時々ひしひしと身に感ずる機会があって, 長期的な展望にたって対策を研究しておかなくてはならないということがしろうとにもよくわかりますが, もうひとつの危機としてしばしばジャーナリズムに

取り上げられる食糧問題のほうは, 衣食足りた(そして礼節を忘れた?)日本にいては, どうもピンときません。そこで, 本号の特集では, 食糧問題の専門家ないしはこれに深い関心をお持ちの方々にお集りいただいて, この問題を科学的に分析してもらいました。新聞記事と違って, 質量ともに充実したものとなり, 食後の腹ごなしに眺めるといわけにはいかなくなりましたが, じっくりとお読みいただいて, OR関係者としてはこの問題にどう取り組むべきかをお考えいただければ幸いです。(I)

## オペレーションズ・リサーチ

昭和54年3月号 第24巻(新シリーズ第4巻) 3号 通巻219号

代表者 小林 宏 治

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113

編集人 奥野 忠 一

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円(郵送料含)年間予約購読料 7200円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは日経弘報社(563-2241), 明報社(571-2548)へ